

山田みやこの活動報告

平成30年9月23日(日)

性暴力を考える講演会に参加

〈基調講演〉

性暴力被害の経験から～支援と回復について
講師 山本 潤氏(SANE-性暴力被害者支援看護師)

13歳から20歳まで実父からの性暴力に遭い、自殺未遂やうつ・退行現象・脅迫症状などに苦しみ続けた。その後性暴力被害に向き合い、性暴力被害者支援看護師 SANE(セーン)となり被害当事者が生きやすい社会を作るため、一般社団法人Springを設立した。性暴力とは自分の意志に反して性的なことをされること。加害者は88.8%が知っている人、しかし誰にも相談していないが56.1%。

ほとんどの加害者が処罰されていない。しかし被害者は、PTSD・うつ・アルコール依存など精神的後遺症に長い間苦しむ。理解されにくく、二次被害も起きている。

2017年に刑罰性犯罪改正が行われたが、まだまだ積み残された課題はある。3年を目途に見直しをするという附則があったが、法律を議論するには2年掛かる。スタートしなければ間に合わない。性被害者が生きやすい社会にするために現場の声を行政・議員に届ける。見直しが必要とする世論を盛り上げる。刑法を検討する会議に性暴力の実態を理解している専門家を入れる。

性被害者が責められない社会。

性加害者に責任を取らせる社会。

性被害当事者が生きやすい社会を作っていくことが本当に求められる。

平成30(2018)年度
性暴力を考える講演会

日時 平成30(2018)年9月23日(日)
開場12時30分 13時～16時40分

会場 とちぎ福祉プラザ
福祉研修室A・B 宇都宮市若草1-10-6

—— プログラム ——

第1部 13:00～15:00
基調講演
性暴力被害の経験から～支援と回復について
講師 山本 潤氏
(社団法人 Spring代表理事 SANE(性暴力被害者支援看護師))

第2部 15:10～16:40

分科会1 **若年女性への性暴力と支援**
講師 細金 和子氏
(社団法人 Colabo理事/婦人保護施設慈愛寮 前施設長)

分科会2 **性暴力被害をめぐる法制度**
講師 横山 幸子氏(弁護士)

分科会3 **とちぎ性暴力被害者サポートセンターから見える性暴力**
講師 荻津 守氏(栃木県済生会宇都宮病院地域連携課長)

参加者募集 **150名無料** **申込締切** 平成30(2018)年9月7日(金)

お申込みは裏面をご覧ください。

主催:認定NPO法人ワイメンズハウスとちぎ
本講演会は栃木県からの委託事業です。

〈分科会〉

「若年女性への性暴力を支援」

講師 細金和子氏(婦人保護施設慈愛寮前施設長)

性暴力被害者のためのワンストップセンターが全国に46ヶ所開設されている。

慈愛寮は一人で出産を迎えなければならない女性のための婦人保護施設。

おおむね妊娠36週から産後6ヶ月くらいまでの期間はくらいまでの期間利用できる施設。看護師・栄養士・心理職・保育士等による支援が受けられる。利用料はなし。三食提供され、着の身着のまま入所できる。入所措置の決定は東京都女性相談センター、退所後は母子生活支援施設、宿所提借施設、生活保護でアパートでの生活、母と子が別の施設で支援を受ける場合もある。

入所者の9割近くがこれまで何らかの暴力を受けている。性虐待は5人に1人、DV家庭、母子家庭、生保家庭、両親の離婚、再婚などを経験している親の交流

があっても、親世帯が貧困で頼れない。中卒または高校中退者が約半数、いじめ・不登校の経験がある人が多い。知的・発達障害があっても適切な教育や支援を受けずに来ている。

慈愛寮にたどり着いた女性たちは、もっと早く支援が必要だったが妊娠・出産によって初めて支援につながる。産前・産後の時期に福祉的・医療的・心理的支援・生活支援を手厚く受けることは、女性自身の幼少期からの心的外傷体験からの回復につながる。

赤ちゃんの成長を社会が見守るスタートになる。退所後の支援も行っている。

虐待や性虐待を受けた若年女性は、家出し行き場がないため、男友達やSNSで知らない男に頼る。違法風俗でしか生きていけない。

児相や警察には行かない。ホストや売春者の親切が今までにないうれしい経験になる。食べ物・お金・ケータイ・住まいも提供してくれる。しかし本当の支援者は売春者から女性たちを取り戻さなくてはならない。一般社団法人Colabo(仁藤夢乃代表)では、夜間バスカフェを行っている。児相の一時保護に繋がらない少女たちを歓楽街で夜間発見し、一泊させて支援に繋げることもしている。

家族が頼れない子は、スカウトが目をつける。性暴力を受けてきた子はさらに性搾取へとつながり、心を病んでいく。新宿区の若年性虐待者の自殺率は高い。性の人権教育より、人をおとしめる情報が先に入っていく。性暴力を容認する、性を買う社会の問題がある。性において女性のNOはYESだと言われ続けてきた男性優位社会。被害女性にも落ち度があると言われる差別など。

慈愛寮は、聞いてほしい記憶を安心して話せる安心な場所。ラセン階段のように一步一步回復していくところ。「あなたは悪くない」というメッセージを伝え、ていねいな支援をしている。

本県においては、若年女性への支援は被害が表に出ない分、まだまだ充実しているとはいえない。

今後ますます必要な支援になってくる。

